

## 脳卒中の予防・診断・治療

厚生労働省の平成24年統計による日本人の死因は、順に①**悪性新生物**(28.7%) ②**心疾患**(15.8%) ③**肺炎**(9.9%) と続き、4番目に**脳血管障害**(9.7%)が続きます。上位3疾患による死亡割合が増加しているのに対照的に、脳血管疾患による死亡は減少傾向にあります。脳血管疾患の中では**脳梗塞**(59.2%)が最も多く、**脳出血**(27.6%)、**クモ膜下出血**(10.7%)と続きます。死亡を免れても後遺症や長期臥床が問題となり、要介護原因の20%以上を占めています。

脳梗塞の原因には脳内小動脈病変が原因のラクナ梗塞、(頸部～頭蓋内の動脈硬化が原因となるアテローム血栓性脳梗塞、不整脈など心疾患が原因となる心原性塞栓症が挙げられます。高血圧や高脂血症、糖尿病が危険因子となり、治療によりリスク減少が期待できます。脳梗塞急性期には血栓溶解療法も行われます。再発予防としては抗血小板剤内服などの内科的治療や、血管狭窄に対する拡張など外科的治療が行われます。

脳出血は大半が高血圧性ですが、血管腫や動静脈奇形などの血管異常による出血もあります。出血量が多い場合は血腫除去術を行う事もあります。血管異常を認める場合は摘出手術や放射線治療により再出血を防ぐ治療を行います。再発予防には血圧の管理が重要となります。

クモ膜下出血の主な原因は脳動脈瘤の破裂ですが、動脈壁の解離や動静脈奇形などでも起こりえます。動脈瘤を脳ドックなどで見つかった場合は、クリップをかける外科的治療やコイルを詰める血管内治療で治療が可能です。喫煙習慣や高血圧、過度の飲酒も出血の危険因子となるため、改善をする必要があります。

以上、脳血管障害は高血圧や糖尿病などが危険因子となる為、人間ドックや脳ドックで早期発見し、治療を行う事で予防できる病気であることを強調したいと思います。

脳神経外科医長 阿部 克智

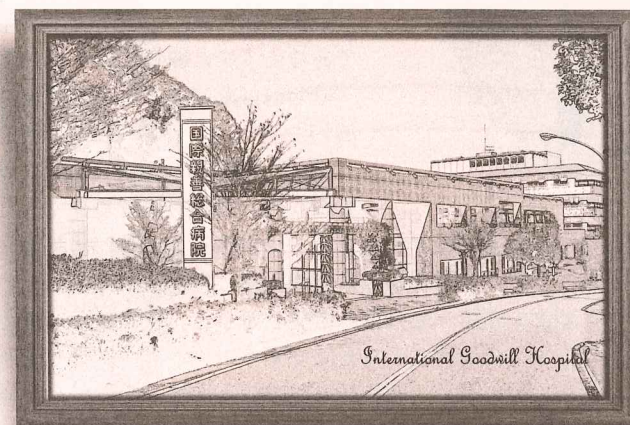
このテーマは

平成26年2月14日(金) 15:00から約1時間

の健康懇話会にて講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

# 病院だより



新しい年を迎えて

Masaru Murai

村井 勝

脳卒中の予防・診断・治療

Katsutoshi Abe

阿部 克智

## 国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1  
TEL 045(813)0221 (代表)  
FAX 045(813)7419 (総務課)

当院ホームページをご覧ください。

<http://shinzen.jp>





## 新しい年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

旧年は夏の暑さが厳しくかつ長く続く一方で震災からの復興、特に原発事故問題の処理・解決は遅々として進みませんでした。期待されたアベノミクスもまだ不十分で、世の中全体が明るい方向には向かっているとは言い難い様であります。今年こそは皆様が落ち着いて過ごせる素晴らしい年であるようにと願っております。

昨年は国際親善総合病院の前身である横浜パブリック・ホスピタルの文久3年(1863)開設から数えて、150周年に当たりました。外国人居留地にできた病院は、

4年後に横浜ゼネラル・ホスピタルとなり、我が国近代医学の黎明期における指導的な病院でありました。第2次世界大戦中敵産に指定後、日本人を中心とする財団が設立され、名称を横浜一般病院と変更しました。戦後連合軍進駐によって山手地区の病院は欧米人の運営による横浜ゼネラル・ホスピタルと元通りの名になりました。関内相生町の横浜一般病院は国際親善病院と改称、その後国際親善総合病院となり、平成2年(1990)には弥生台に移転いたしました。なお山手の病院はブラフ・ホスピタル(山手病院)と名をかえ昭和57年(1982)まで存続しました。この病院の玄関ホールに掲げられていた歴代の功労者名を刻した銅版を

その由來說明文とともに本院の1階エントランス廊下に半年間飾り、皆様にご覧いただきました。昨年7月には関係各位のご臨席を賜り病院創立150周年記念式典を挙行し、職員一同が先人の業績を敬い歴史を誇りに思うと同時に、あらためて医の原点に立ちかえることを誓いました。また9月に予定しました150周年記念特別講演会は講演をお願いした森喜朗元総理の東京オリンピック招致活動と重なり、本年の1月11日の開催と延期いたしました。創立150年を機にこれまで必要に応じ行ってきた病院の再整備を抜本的に進めることといたしました。すなわち病院機能強化と療養環境の改善を目指し、診療を継続しながら3年余の工事期間を予定しております。本年度は正面玄関のロータリー部分に新館棟(3階建、建築面積約1,000㎡)を建設中予定です。工事に際し騒音、粉塵などはもとより工事車両の出入りなどに細心の注意を払い、近隣の皆様方にはもちろんのこと患者さんにご迷惑をおかけせぬよう最大限つとめます。何卒ご協力のほどをお願い申し上げます。

本年も皆様のご指導・ご支援を得まして、さらに信頼される病院となるよう努力致す所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

平成26年 元旦  
病院長 村井 勝



(新館棟完成予想図-平成27年3月竣工)

## あけましておめでとうございます

～2014年の抱負～

国際親善総合病院は、患者さんの目線で患者さん中心の医療を実施するよう努めております。本年も泉区を中心とする横浜西部地区の皆様が安心・満足できる良質な医療の提供を行いたいと思います。また、地震等の災害の際には、病院として迅速に医療を提供していきたいと思っております。

副院長 飯田秀夫

国際親善総合病院は地域の皆さまの期待に沿えるような病院として、本年も更に一步前進していきたいと考えています。私は医療の本質とは「困っている人の支えになり助けとなる事」だと思います。この地域の人たちが、何か健康上の問題で困った時、24時間365日いつでも病院で解決の手伝いができるような、「断らない医療」の実現を目指して診療部一同本年も頑張る覚悟ですのでよろしくお願い申し上げます。

副院長兼診療部長 清水 誠

泉区では唯一の急性期総合病院の看護部として“心のこもったあたたかい看護”をモットーに、今年もさらに患者さんのお役にたてるよう努めてまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

看護部長 楠田清美

創立150周年を記念した病院再整備事業が、いよいよ今年から始まります。地域における急性期中核的な病院として、ソフト面だけでなくハード面についても皆様に喜んでいただけるよう頑張ります。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

管理部長 中川秀夫